

2月 絵本であそぼ!

■0歳児 『わんわんなくのはだあれ』



1月は、『わんわんなくのはだあれ』の絵本を読みきかせしてきました。いろんな動物の鳴き声から当てっこする絵本です。「〇〇なくのはだあれ？」の語りかけが繰り返され、ページがめくられるたびに子どもたちの、声や笑顔があふれます。また、リズムカルな文章なので、聞いている方も心地よいと感じます。読んでいくうちに子どもたちも、「にゃお」「ブーブー」「モォー」と次に出てくる動物が分かるようになって、期待をよせてページがめくられるのを楽しんでいます。この絵本に出てくる動物のお面を作って、動物さんと真似っこ遊びや待て待て遊びかくれんぼ…、と遊びが広がっています。

◆1歳児 絵本『ぐるぐるちゃん』

子どもたちが大好きな集団遊びやわらべ歌あそびをたくさん行い、お部屋や散歩先で大好きな絵本の登場人物とやりとりをして楽しんできたどんぐり組です。子どもたちが大好きなあそびは何だろう…と考えこんな遊びをステージでしたら楽しいだろうと色々な遊びを組み込みながら発表会にむけて、ステージでお兄さんやお姉さん、他のクラスの保育士に見てもらおう中でぐるぐるちゃんごっこを楽しんでいます。いつもと違う雰囲気を感じてしまう子ども、見てもらおうことが嬉しくて心弾む子ども。いろんな姿がみられますが、どの姿も丸ごと受け止めて、楽しみながら進めていきたいと思えます。

担任だけの考えでなく、職員間で意見を出し合い、子どもたちにとってどのように進めていくのが良いかを見出しながら、取り組んでいます。子どもたちとのごっこあそびを通して、担任の私も成長させてもらっていることを感じているところです。子どもたちの声を、反応を大切にしながらごっこあそびを楽しみたいと思えます。



●2歳児 絵本『つのはなんにもならないか』

絵本紹介

あかたろうん(赤)、きよちゃん(黄)、みどりちゃん(緑)、あおおくん(青)の4人の鬼の子どもたちは仲良くなわとびやボール遊びをしています。しかし、何をやっても角が邪魔をして遊べません。「むしゃむしゃの森に冒険に行こう!」と4人で冒険に出かけることにしました。森の中では怖いライオン、ぞう、へびとの出会いがあり、鬼の子たちは角を使ってやりとりをし、食べられずに逃げ帰ることができました。「つのがあってよかった」鬼の子たちは角を大切にしようと思える経験をします。

発表会に向けて



保育士がライオンやぞう、へびになって「お前達を食べちゃうぞ」と登場すると、鬼の子になった子ども達が「困ー!」「角でグリグリする!」とやりとりが始まります。鬼の子だけでなく、ライオンやぞうな自分の好きな役になって劇遊びをしてきました。同じ役を何度もする子どももいれば、いろんな役をやる子どもと様々です。

絵本を読んでいると、絵本の内容を覚えてきて保育士が読むのに

合わせて声をそろえて読めるようになってきました。「お母さんに見てもらいたい!」と発表会に向けて劇遊びを楽しんでいます。

■3歳児 絵本『おなかのなかにおにがいる』

絵本『おなかのなかにおにがいる』を読んで、皆のお腹の中にもオニがいたら大変だから豆まきをしよう、節分に向けて鬼のお面や豆入れを作りました。出来上がってみると、かわいい鬼が勢ぞろい。「かわいいオニにができたね」「こわくないばい」「髪の毛もくるんてしててかわいいね」と言い合っていました。

出来上がって、お庭で遊ぼうかと誘うと、「この前鬼の足跡があったけん、お面かぶっていったらいい?」「かぶっていったら鬼の仲間って思ってたけん」と子どもたち。お庭でお面をかぶって遊びながらも、「赤いが見えた!」と誰かが言うのと一斉に反応して手を止め辺りをキョロキョロ。それでもお面をかぶっていることが支えのようで、脱げそうになると自分でしっかり頭にかぶりなおしている姿がなんともかわいい子ども達です。節分の日にお腹の中の鬼は出て行ってくれるかな?楽しみです。



◆4歳児 絵本『だごだごころころ』劇づくり



「火曜日が見せ合いっこ。弟妹たちや先生達に見てもらいたい!」という目標を持って子ども達も取り組んでいきました。友達から自分はどんな風に見られているかな?という事が気になるようになる4歳児期りんご組さんは、人前になると人の目が気になる姿が増えてきます。劇作りの中でも気持ちは頑張らないと思っても声が出なかったり、小さな声になってしまったりする子どもの姿もあり「大きな声でセリフを言おう」という事を目標にしました。声が小さかったお友達も大きな声でセリフをいう友達の姿を見て、頑張ってみよう!と大きな声を出せるようになったり、ぶどうさんに見てもらおう中で、「恥ずかしいけれど頑張ったら出来るよ」と励ましてもらったりしながらりんごさんの声がとっても大きくなっていきました。そして見せ合いっこ当日は他のクラスの先生がびっくりするくらい大きな声でセリフを言う事ができ「りんごさん、セリフの声がしっかりと聞こえてかっこよかったです」と褒めてもらいとっても嬉しそうにしていました。次も頑張ろう!!と張り切っています。

■5歳児 絵本『黄金のかもしか』劇づくり

ぶどうさんは、長い絵本で、セリフも沢山あり、覚えるために子ども用の台本を貼っておいたら自分たちで文字を読んで自主的に覚えようとする姿がありました。見せ合いっこに向けて、練習する中で、「セリフを言うだけでなく動きもつけたら見ているお客さん達にも解りやすいよね」と手振りや身振りを考えていきました。見せ合いっこ当日の朝はちょっと緊張気味でセリフを忘れてしまったらどうしようとつぶやく声もありましたが誰にでも失敗することはあるし、そういう時はどうしたらいいかなと考え「そっと教えてあげたらいい」と皆で力を合わせていこうと望みました。終わると「見てもらって嬉しかった」と喜んでいました。「セリフを言うのはとっても上手だったよ。だから今度は登場人物の気持ちを考えながら、どんな風にセリフをいうかということを工夫してみたら」とアドバイスをもらいました。次の見せ合いっこに向けて頑張ります。

